

めでやっぺ!

富岡町を担う子供達の希望のメッセージ…届け!富岡の空へ、夜ノ森の桜へ

今後に向けた決意…富岡高等学校バトミントン部 大堀 優

私たちは避難先である猪苗代町で、大切な仲間たちと共にまた温かい町民の皆さんに支えられながら、大好きなバトミントンに青春のすべてをかけています。3月11日あの日のことは決して忘れません。でも、絶対に振り返ったりはしません。私たちは前だけを向き闘い続けます。私たちの故郷富岡町の復興を信じて…。

富岡高等学校

県立富岡高等学校卒業式答辞より(抜粋)… 卒業生代表 若林 美里

在学中は当たり前のように思っていた時間が、今はかけがえのない思い出と分かります。自分の居場所を自分で見つけようとするうちに、どれほどたくさんの人たちに巡り逢うことができたか、そしてその人たちとの出逢いが自分自身にとってどれほどの糧になっていたか。素晴らしい出逢いの数々に思いを馳せると、富岡高校で過ごした時間は私の人生にとって欠くことのできない一ページであったということに、疑いの余地はありません。

自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちの大切なものが容赦なく奪われていきました。また、人間の科学は進歩という名の下で、放射能汚染という大きな過ちを犯しました。命の重さ、平穏な日々の大切さを知るには、これらは大きすぎる代償でした。被災地の時計の針は、十四時四十六分を指したままです。しかし、時は確実に流れています。生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、本校の校歌にあるように、清く明るく、広く優しく、強く正しく、生きていかなければなりません。苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく事が私たちの使命です。



私たち卒業生は今それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。そして、卒業という節目を迎える今、将来への第一歩を踏み出す希望と共に、一抹の寂しさも感じます。どこにいても、何をしようとも、富岡の地で、そしてそれぞれのサテライトの地で仲間と共有した時間は忘れられない宝物であり、今後の人生における貴重な財産です。

在校生の皆さん、「あたりまえ」に思える日々が、いかに貴重なものかを噛みしめ、愛おしんで過ごして下さい。そして、残りの高校生活を充実したものにし、日々の生活の中で大切な何かをつかんで下さい。自分たちの可能性を模索する高校時代、皆さんが有意義な生活を送り、明るい未来への道を切り開いて行くことを心から願っています。



私たちは福島県富岡町の中学生です。今回の震災、原発事故により、やむなく故郷を立ち去りました。今まで一緒に過ごしてきた仲間、先生方、地域の方々と離ればなれになり、連絡がとりたい人がいてもとれない状況が続いています。

「温かい食事をする」「お風呂に入る」「洗濯した服を着る」「仕事をする」という当たり前の生活が被災地にはありません。今も避難所の硬い床で寝ている人がたくさんいます。段ボール1枚で隣と区切られているだけです。

避難所から出て、知らない土地にアパートを借り生活している友達があります。親は仕事が無くなり収入が入ってきません。それでも着の身着のまま逃げてきた人は本来買う必要のないものにお金を使ってしまう。津波で家が流され、仕事場が流され、家族が流され、仲間が流され、毎日が苦しくて悲しくてつらい人、家があるのに帰れない人、苦しむ理由はそれぞれですが、みんな毎日先が見えない現実と戦い続けています。

今の政府の対応に不満が募っています。もっと具体的に説明してください。計画避難区域に指定される地域はなぜそうなったのか、漁業関係者が反対したのに低レベルの汚染水をなぜ海に流すのか。

この文章は仲間とメールのやりとりをしてまとめました。中学生の考え方では伝わらないかもしれませんが。こんな文章じゃ何も変わらないかもしれません。

全国に友達が散らばりました。電話で声を聞くだけです。仲間会えず毎晩泣いています。顔を合わせ話したいです。

大人は「もう戻れない」「戻るには10年はかかる」と言っています。なぜ大人はそういうことしか考えられないのでしょうか。私たちは故郷に戻ります。いつか必ず戻るとみんなで約束しました。(共同通信 福島復興ビジョンより平成23年4月20日発信)

富岡海岸 夜の森公園



*これは震災後、約1か月が経過した頃の富岡町の中学生がメールを交わす中で作ったメッセージです。子供たちの「富岡町」この故郷を想う気持ちに勇気が湧きました。約束しよう!!必ず戻ると…。

歩きはじめた人たち…

おらほ・ya



本格的にお店を始めたのは10月から、会津に避難していたこともあり、野菜等の仕入れはご自分の会津で農家から直接仕入れ、ご自分で運んでいらっしゃる、お客さんが待っているという使命感から無理をして体調を崩したことも…。お客様からは、「安心して食べられる新鮮な野菜」と喜んでいただいています。

今後の抱負について尋ねると「今は目の前のことを一生懸命やることかな」と笑顔で話してくださいました。

住所 口福島県郡山市ビバホーム横塚店内(仮設店舗)

南双理容郡山店



12月21日に南1丁目仮設住宅の敷地内にオープンしました。

三春での避難所でカットの仕事を行った際、きちんとしたサービスがしたいと考えました。またそれだけでなく、床屋には住民の皆さんの集える場とお茶をのみながら話のできる場となるように思うようになりました。同じ敷地内に住んでいても、散髪に来て会って側にいることを知り、抱き合っただ方もいらっやいます。今は来年の3月までという期間が決まっているもの、お客さんの笑顔が、かけがえのない財産ですと、店主の鈴木博英さんが話してくださいました。

住所 口郡山市南1丁目94応急仮設住宅敷地内(ビッグパレットとなり)
携帯 090-3687-1076

四季の食彩 和伊んや



「地元の人達に会いたかった。誰がどこにいるのか、お店をオープンすれば橋渡しできるのでは…」と考え開店した、と代表の松崎達哉さん。看板を見て、「夜の森にあったお店では?」と訪ねて涙を流して話された方もいました。今後は地元の福島で新鮮でおいしい野菜を使ったお料理を作り、きちんとメニューに表示して、お客様に選んで食べてもらえるようにしたい。また富岡のお店も帰れるようになったら再開し、皆さんと必ず再会したいと話してくださいました。

住所 口郡山市安積3丁目157番地
TEL 024-973-7234

坂本接骨院



ビッグパレットの避難所で何度かマッサージボランティアを行っていました。富岡で通院されていた方々から要望されたという事もあり、開院のきっかけは「前を向いて歩いて行く姿を子ども達に見てほしいと思ったから」と院長の坂本敏行さん。奥様の文さんと共に6月より開院されました。患者さんには側にいてくれてよかったと言ってもらいました。また、自分自身も富岡での患者さん方の笑顔を見ることができてうれしいと話してくださいました。

住所 口郡山市安積町日出山3丁目292-3 第1ツタヤ106号
TEL 024-973-6877

美容室 Mist



代表の井手幹子さんは5月から市内の美容室に勤めましたが、富岡町での常連のお客様達に「いつもの幹ちゃんらしさがなくてさみしい…」との言葉が…。また自分の子どもたちに「母はここでがんばっている姿を見てほしい」という思いから自分の店をオープンすることを決意しました。

富岡でのお客様が望んでいたものは、憩える場だと分かりました。幹子さん自身もお店がそういう空間になる事がうれしいと話されています。「お店の看板もあえて皆が分かるように富岡のものと同じにしたのです」と話してくださいました。

住所 口郡山市富久山町久保田字南田40-1 大幸多ビル101
FAX 024-983-9991 携帯 080-5550-2170

私は震災後千葉県に引っ越しました。友達ができるかどうか不安でした。でも今はたくさんの友達がいます。千葉はとても良い所です。今はまだ富岡へは行けません。いつか行ける日が来ることを私は願っています。警戒区域に残された動物たちのことも気にかかっています。杉澤幸歌

【発行】

おだがいさまセンター

(富岡町生活復興支援センター)

運営 富岡町社会福祉協議会

電話 024-935-3332

FAX 024-935-3334

場所 郡山市富田町若宮前32(富田仮設住宅内)

ブログ <http://odagaisama.com/>

ツイッター <http://twitter.com/odagaisama>

QRコードはこちら

協力 福島県中地域NPOネットワーク
(通称: なかネット)



今後もいろいろな形で紹介させていただきますので情報の方もよろしくお願いたします。

沢山の頑張っている方々の中から今回は郡山市内のお店を再オープンした方を紹介させていただきます。ご了承下さい。